

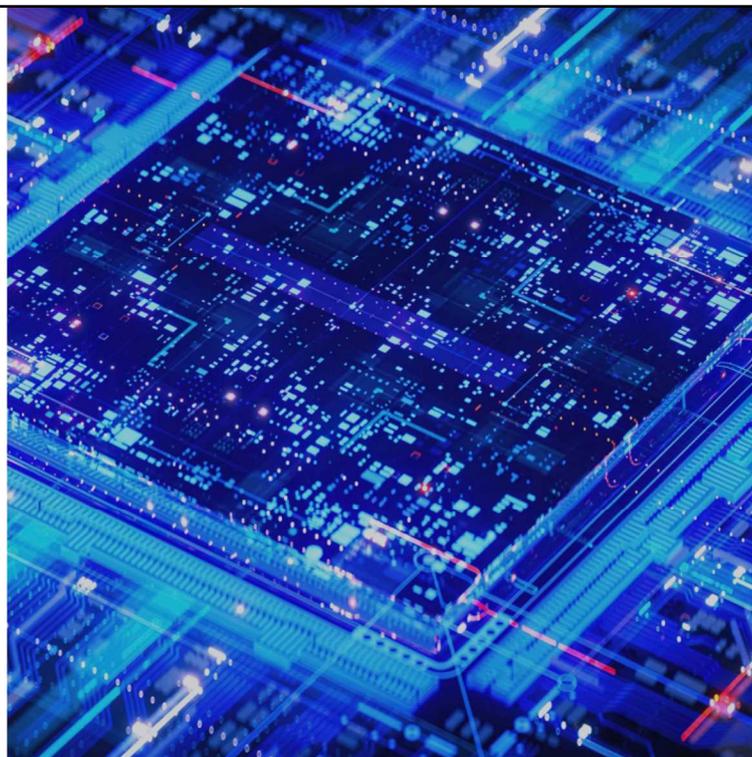
ULVAC

株式会社 アルバック

2024年6月期
決算説明資料

2023年7月～2024年6月

2024年8月13日





将来見通し等に関する記述についての注意事項

■ 将来見通しについて

本資料に記載の業績見通しならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき作成されたものです。世界経済情勢、半導体・電子部品・FPD・原材料などの市況、設備投資の動向、急速な技術革新への対応、為替レートの変動など様々な要因により、実際の業績・成果等はこれらの見通し・将来予測と大きく異なる可能性があることをご承知おください。

■ 数字の処理について

本資料に記載の数字・比率につきましては、単位未満四捨五入で処理しております。

■ 品目名称変更について

FPD製造装置の名称をディスプレイ・エネルギー関連製造装置に変更しました。

2024年6月期連結業績

- 受注高・売上高・各利益項目は前年同期・計画を大幅に上回る
- 売上高2,611億円・売上総利益率30.9%は**上場来最高水準**
- 24/6期配当金144円（前回予想比+30円）は**過去最高**

2025年6月期連結業績予想

- 受注高2,700億円、売上高2,750億円、営業利益345億円の計画
- 売上総利益率32.4%、営業利益率12.5%を計画

中期経営計画

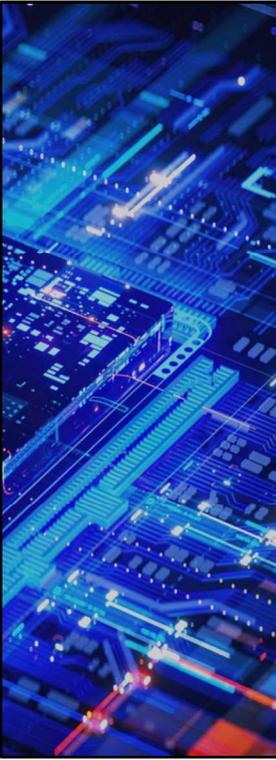
- 26/6期目標に変更なし
売上高3,000億円、売上総利益率35%、営業利益（率）480億円（16%）
- モノづくり力強化による生産性向上・利益率改善を継続的に推進
- 成長に向けた研究開発投資継続

本日の説明のサマリーですが、3つのポイントを説明してまいります。

1つめ、24年6月期の連結業績につきましては、好調な結果となり、受注高・売上高・各利益項目ともに、前年同期および計画を大幅に上回りました。特に売上高2,611億円、売上総利益率30.9%は、上場来最高水準となりました。配当金につきましても前回予想を30円上回る144円を予定しており、過去最高となります。

2つめの、25年6月期の連結業績予想については、受注高2,700億円、売上高2,750億円、営業利益345億円、売上総利益率32.4%、営業利益率12.5%を計画しています。

3つめの中期経営計画の最終年度にあたる26年6月期目標については、売上高3,000億円、売上総利益率35%、営業利益480億、営業利益率16%に変更はありません。モノづくり力強化による生産性向上・利益率改善を継続的に推進し、成長に向けた研究開発投資も継続し、更なる成長を実現してまいります。



2024年6月期 連結業績

それでは、24年6月期の連結業績をご説明します。

- 受注高・売上高・各利益項目は前年同期・計画を大幅に上回る
- 売上高2,611億円・売上総利益率30.9%は上場来最高水準
- 24/6期配当金144円は過去最高

【単位：億円】	23/6期 通期実績	計画値	通期実績	24/6期			
				前年同期比		計画比	
				増減	%	増減	%
受注高	2,472	2,500	2,582	+110	+4%	+82	+3%
売上高	2,275	2,450	2,611	+336	+15%	+161	+7%
売上総利益	672	-	807	+135	+20%	-	-
率	29.5%	-	30.9%	+1.4pt	-	-	-
販管費	472	-	509	+37	+8%	-	-
営業利益	199	230	298	+98	+49%	+68	+29%
率	8.8%	9.4%	11.4%	+2.6pt	-	+2.0pt	-
経常利益	229	245	298	+69	+30%	+53	+22%
率	10.1%	10.0%	11.4%	+1.4pt	-	+1.4pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	142	160	202	+61	+43%	+42	+26%
率	6.2%	6.5%	7.7%	+1.5pt	-	+1.2pt	-
一株当たり配当（円）	109		144	+35			

Copyright© 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

5

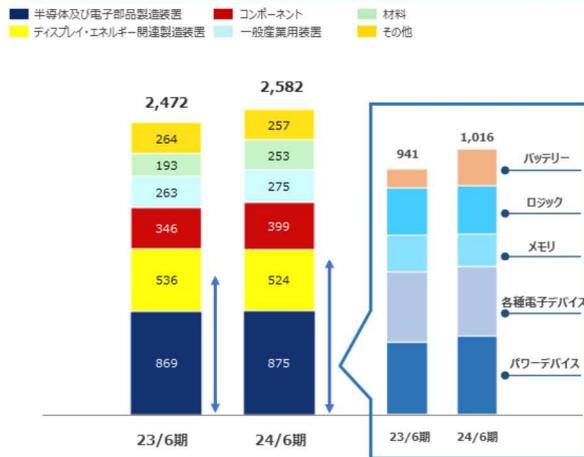
24年6月期の、受注高は前年同期比110億円増加の2,582億円、売上高は336億円増加の2,611億円、営業利益は98億円増加の298億円となり、いずれも前年同期および計画を大幅に上回りました。

特に売上高、売上総利益率は、上場来最高水準となりました。また、一株あたりの配当金も前期の109円から144円に35円の増配を予定しており、過去最高となります。

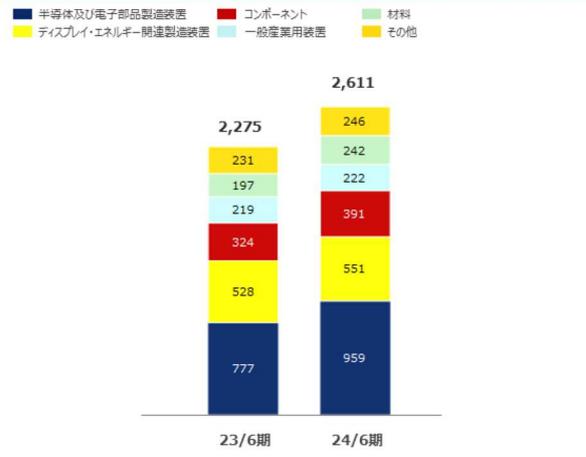
2 受注高・売上高実績

- 受注高：パワーデバイス・バッテリー・材料関連の増加等により、前年同期比増加
- 売上高：受注高増加、高水準の受注残高の寄与等により、2,611億円と上場来最高水準

受注高 [単位：億円]



売上高 [単位：億円]



Copyright © 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

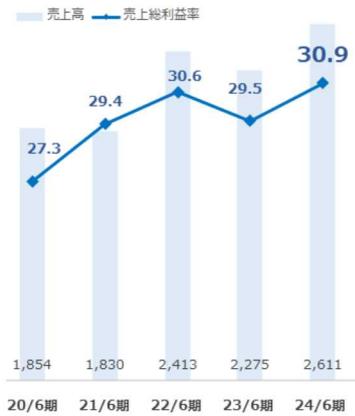
左のグラフは受注高となりますが、成長ドライバーであるパワーデバイスやバッテリーに加えて材料関連などが増加したことにより、前年同期比110億円増加し、2,582億円となりました。

右の売上高は、受注高増加に加え、24年6月期の期初受注残高1,410億円が寄与したことなどにより、2,611億円と上場来最高水準となりました。

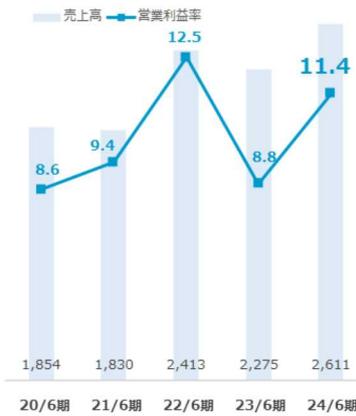
3 利益率推移

- 売上総利益率：売上高増加、ミックス改善等により**30.9%**と上場来最高水準
- 営業利益率：売上総利益率改善に加え、販管費率も低下し、**大幅改善**

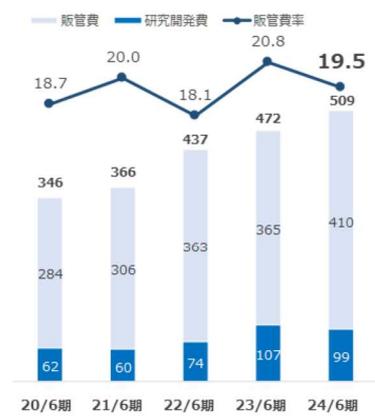
売上総利益率 【単位：億円、%】



営業利益率 【単位：億円、%】



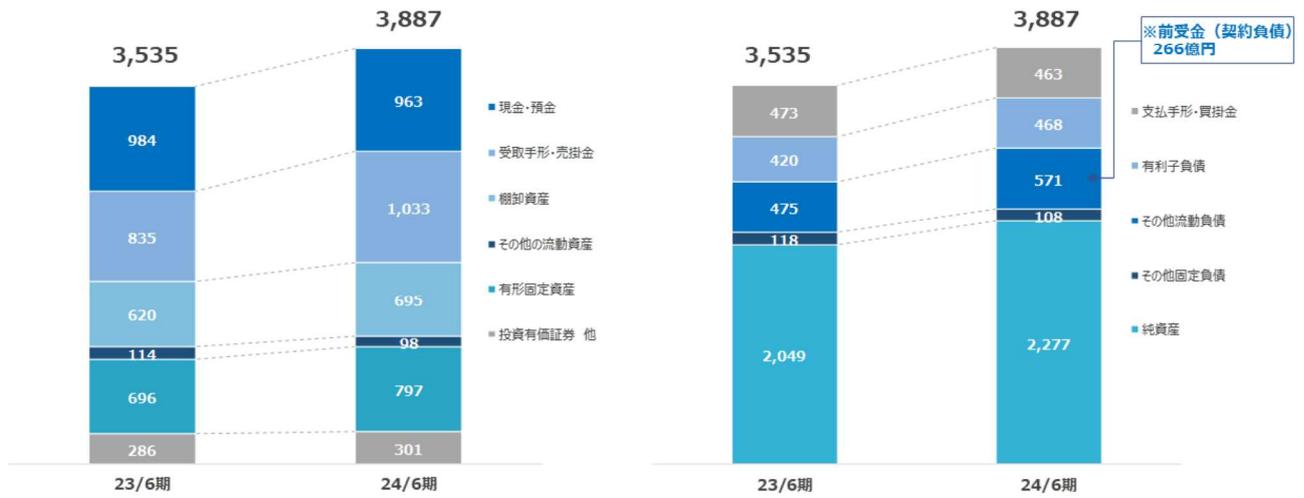
販管費(率)推移 【単位：億円、%】



左の売上総利益率は、売上高増加、ミックス改善などにより**30.9%**と上場来最高水準となりました。真ん中の営業利益率も、売上総利益率の改善に加え、右のグラフの通り、販管費率も低下したため、**11.4%**と大幅に改善しました。

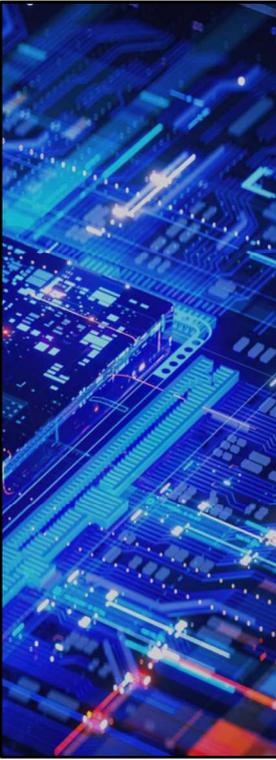
資産 【単位：億円】

負債・純資産 【単位：億円】



Copyright© 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

連結貸借対照表ですが、
売上高増加等に伴い、売掛金等や棚卸資産が増加しています。



中期経営計画の進捗と 2025年6月期 連結業績予想

続いて、中期経営計画の進捗と25年6月期の連結業績予想についてご説明します。

- 中期経営計画目標（26/6期）：売上高3,000億円・営業利益（率）480億円（16%）に変更なし

基本方針

- 真空技術による社会的価値創造
- 利益・資本効率重視の経営

重点戦略

1. 成長事業における製品競争力の強化
2. グローバル生産性の向上
3. 経営基盤の強化

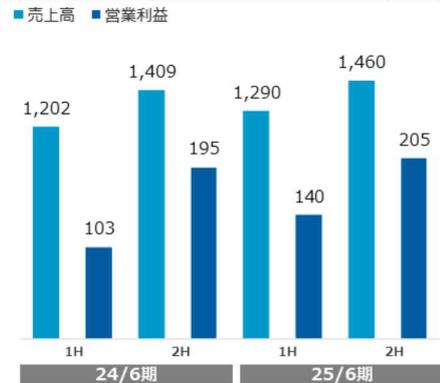
	23/6期 実績	24/6期 実績	25/6期 計画	26/6期 目標
売上高	2,275億円	2,611億円	2,750億円	3,000億円
売上総利益率	29.5%	30.9%	32.4%	35%
営業利益（率）	199億円 (8.8%)	298億円 (11.4%)	345億円 (12.5%)	480億円 (16%)
ROE	7.3%	9.7%	10.1%	14%

中期経営計画の1年目となる24年6月期は売上高・営業利益ともに当初計画を上回りました。25年6月期も着実に売上・利益を伸ばし、最終年度である26年6月期には売上高3,000億円、営業利益480億円、営業利益率16%、ROE14%の目標達成に向け注力してまいります。

- 受注高：半導体（メモリ・ロジック）の投資回復、OLED投資本格化等により**2,700億円**（前年同期比+5%）を計画
- 売上高：受注高増加、高水準の受注残高寄与等により**2,750億円**（同+5%）を計画
- 営業利益率：**12.5%**（同+1.1pt）に改善計画
- 25/6上期・下期ともに前年同期比、増収増益を見込む

【単位：億円】	24/6期	25/6期 計画				前年同期比	
	実績	上期	下期	通期			
受注高	2,582	1,340	1,360	2,700	+118	+5%	
売上高	2,611	1,290	1,460	2,750	+139	+5%	
営業利益	298	140	205	345	+47	+16%	
率	11.4%	10.9%	14.0%	12.5%	+1.1pt	-	
経常利益	298	140	210	350	+52	+18%	
率	11.4%	10.9%	14.4%	12.7%	+1.3pt	-	
親会社株主に帰属する当期純利益	202	90	140	230	+28	+14%	
率	7.7%	7.0%	9.6%	8.4%	+0.6pt	-	

売上高と営業利益の推移 【単位：億円】



今期の業績予想ですが、半導体のメモリ・ロジックの投資回復、OLED投資の本格化などにより、受注高は2,700億円、売上高は2,750億円に増加、営業利益も345億円に増加し、営業利益率は12.5%へと改善する計画です。

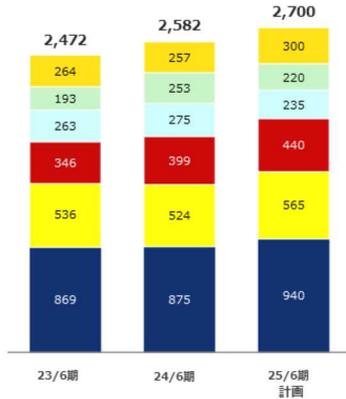
右のグラフの通り、上期・下期ともに、前年同期比、増収増益を見込んでいます。

3 受注高・売上高計画（25/6期）

- 受注高：半導体（メモリ・ロジック）の投資回復、OLED投資本格化、コンポーネント（リークテスト装置等）、その他（表面分析装置等）増加で2,700億円を計画
- 売上高：受注高増加、高水準の受注残高寄与等で2,750億円を計画

受注高 【単位：億円】

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
 ■ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



売上高 【単位：億円】

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
 ■ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



受注高は、メモリ・ロジックなどの半導体関連の投資回復、OLED投資本格化に加えて、コンポーネントに含まれているリークテスト装置やその他に含まれている表面分析装置などが増加することで、2,700億円を見込んでいます。

売上高につきましては、受注高増加に加えて、期初受注残高が1,450億円と高水準であることから、売上高2,750億円に増加する見込みです。

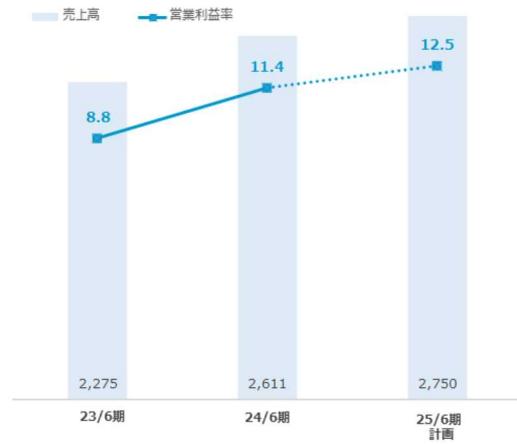
4 利益率計画（25/6期）

- 売上総利益率は売上高増加、半導体電子比率アップによるミックス効果等で着実に改善
- 営業利益率も改善計画

売上総利益率 【単位：億円、%】



営業利益率 【単位：億円、%】



利益率については、売上高増加、半導体電子の比率アップによるミックス効果等で売上総利益率32.4%、営業利益率も12.5%と改善を見込んでいます。

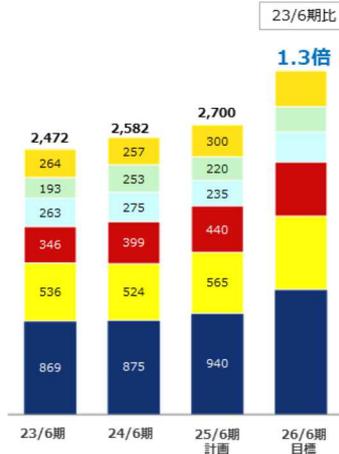
5 受注計画（成長ドライバー）

- 半導体（メモリ・ロジック）の投資回復・新工程参入、バッテリー関連等に加え、ITパネル用OLEDやリークテスト装置（コンポーネント）、表面分析装置（その他）が成長を牽引
- 25/6期から26/6期にかけて成長を加速

受注計画

【単位：億円】

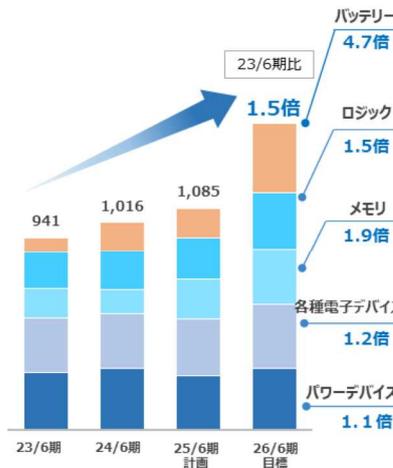
■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



成長ドライバーの受注計画

【単位：億円】

■ パワーデバイス ■ 各種電子デバイス ■ メモリ ■ ロジック ■ バッテリー



- > 車載用EVバッテリー本格採用は、26/6期の見込み⇒投資本格化とともに拡大
- > MHM工程での新規顧客採用
> ロジック投資回復に加え、新工程参入で成長
> レガシー半導体投資継続
- > DRAM・NAND等メモリ投資回復に加え、新工程参入で成長
- > パッケージング（WLP+PLP）、センサー・MEMS、μOLED等、技術革新投資・増産投資が継続
- > EV成長鈍化により、27/6期以降に投資本格化⇒SiC：ウェハーサイズアップ・構造変化を機に拡販を目指す

Copyright© 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

成長ドライバーにつきましては、下から

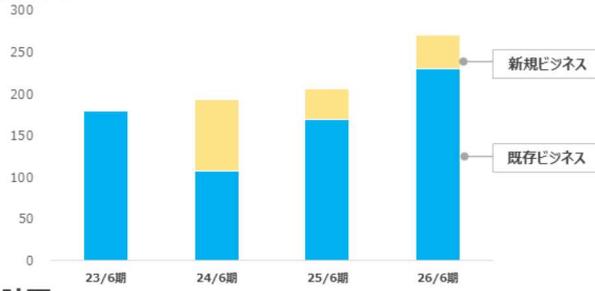
- ①パワーデバイスは、EVの成長鈍化もあり、8インチ投資について27年6月期以降に本格化する見込みで、当初計画時に比べ1年程度の遅れとなっています。
- ②各種電子デバイスは、パッケージングやμOLEDなどの投資が継続する見込みです。
- ③メモリ・ロジックは投資回復や新工程参入によって着実に成長します。
- ④バッテリー関連投資は車載用EVバッテリーへの本格採用は26年6月期からとなり、投資が本格化する見込みです。

成長ドライバー全体では26年6月期は、23年6月期比1.5倍の受注高を目指します。

連結全体では、成長ドライバーに加えて、ITパネル用OLEDやリークテスト装置、表面分析装置が成長を牽引します。

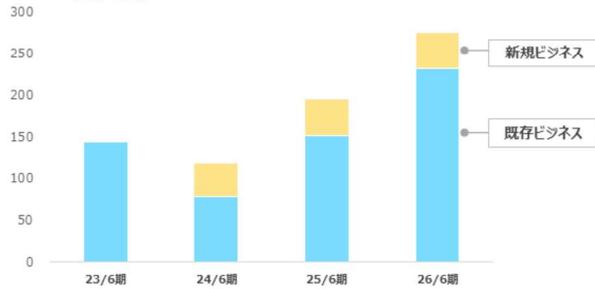
● メモリ (DRAM・NAND)、ロジックの投資回復・新規顧客開拓・新工程参入で着実に成長

ロジック受注計画 【単位：億円】



- > 新規ビジネス：
 - ① MHM工程の新規顧客採用
 - ② トランジスタ周辺工程 (FEOL) 採用
 - ③ 配線周りの工程の拡大 (セカンドベンダー期待)
- > 既存ビジネス：24/6期投資減速⇒25/6期より投資回復、レガシービジネス⇒生産増強投資継続

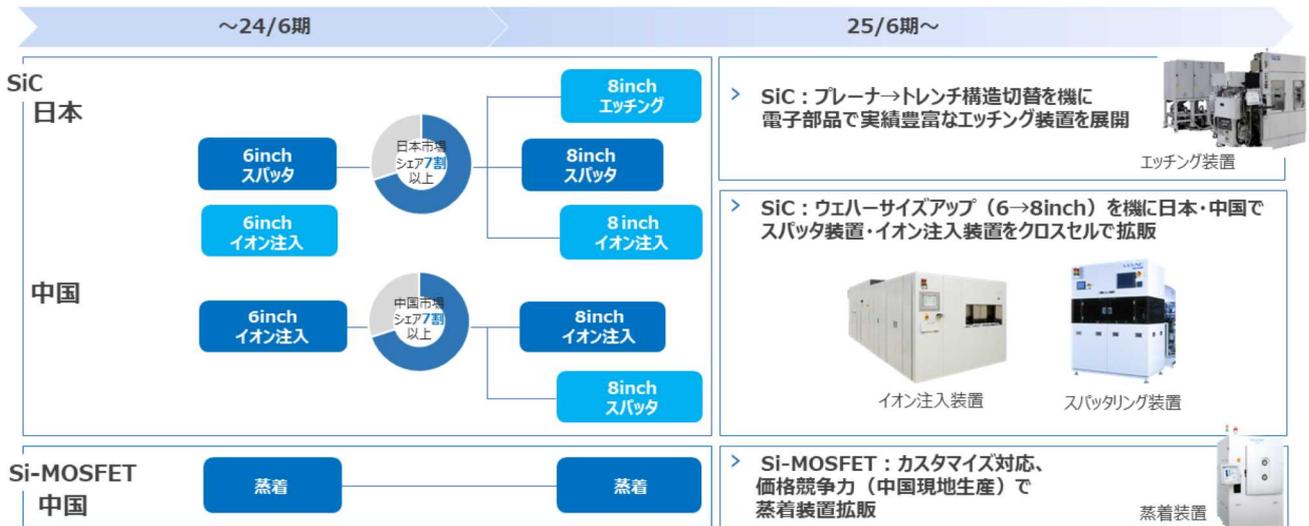
メモリ受注計画 【単位：億円】



- > 新規ビジネス：
 - ① DRAM・HBM工程等採用
 - ② 配線周りの工程の拡大 (セカンドベンダー期待)
- > 既存ビジネス：DRAM・NANDともに25/6期から投資回復

半導体は、メモリはDRAMのHBM工程で採用されており、今後も投資回復と配線周りの工程等での採用拡大により成長を目指します。ロジックは、24年6月期に3社目・4社目の新しい顧客のMHM工程採用やトランジスタ周辺工程での採用などにより、新規ビジネスが大きく伸びました。グラフでは次の25年6月期には既存ビジネスに含まれます。今後も、新しい工程でのビジネスチャンス拡大を進めていきます。

- EV成長鈍化により、SiC・8inchの本格投資は27/6期以降を見込む
- ①高いシェアを有している日本：スパッタ装置、中国：イオン注入装置に加え、②日本：イオン注入装置・エッチング装置、中国：スパッタ装置のクロスセルによる拡販を目指す



パワーデバイスビジネスは、EVの成長鈍化により、SiC・8インチの本格投資は27年6月期以降を見込んでおります。

今後は、高いシェアを有している日本向けのスパッタリング装置や中国向けのイオン注入装置に加え、日本向けにイオン注入装置やエッチング装置を、中国向けにスパッタリング装置をクロスセルすることで拡販を目指します。

また、Si-MOSFET（シリコン・モスフェット）向け蒸着装置も継続して中国市場で拡販していきます。

- 今期は前期並みの投資を見込むが、26/6期は車載用EVバッテリー採用とともに投資本格化
- ①フィルム幅広化（アルミ）による生産性向上、②負極集電体（銅）への対応、③次世代電池負極（リチウム）の開発で成長

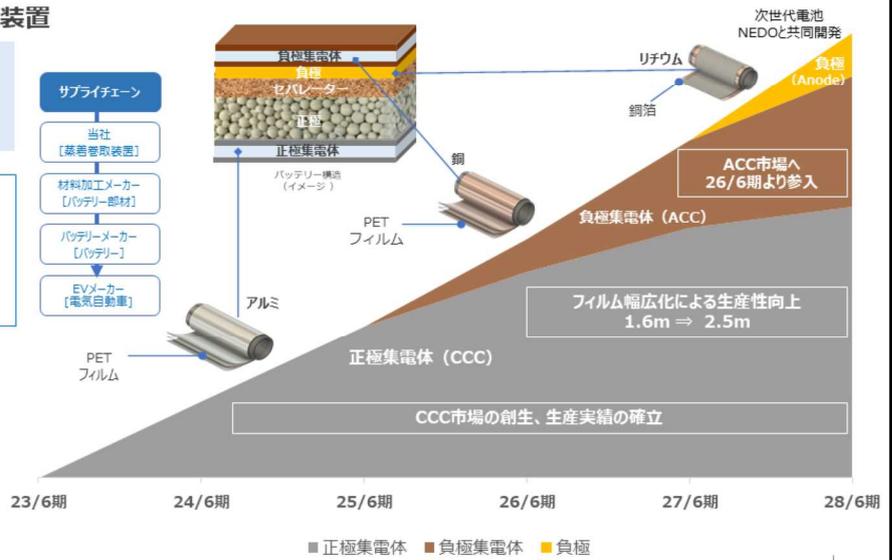
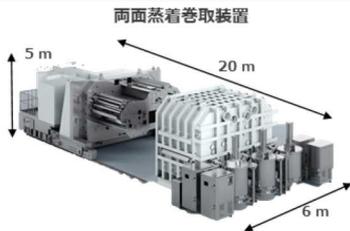
EVバッテリー部材用両面蒸着巻取装置

両面蒸着膜集電体の効果

- ① 安全性向上
- ② 小型軽量化
- ③ 部材コスト低減
- ④ GHG低減

強み

- 車載用フィルムキャパシタ向け蒸着巻取装置で培った技術力と信頼性
- 両面一括・厚膜成膜による**高い生産性**
- 熱ダメージ抑制による高速長尺成膜



バッテリー関連は、安全性向上や小型軽量化による走行距離延伸等を実現する技術として、正極集電体を従来の金属箔からプラスチックフィルムを用いた両面蒸着膜に置き換える投資が始まっています。

今期の投資は前期と同程度を見込んでいますが、車載用EVバッテリーへの採用が進む26年6月期以降は投資本格化すると見込んでいます。

今後、アルミ両面蒸着膜のフィルム幅広化による生産性の更なる向上や銅の両面蒸着による負極集電体の置き換えを推進します。将来への取り組みとしてリチウムを用いた次世代電池の負極の開発も進めています。

● ITパネル (タブレット・PC) 用OLED (G8.7クラス) の量産投資本格化

⇒G8.7スパッタリング装置・クライオポンプでビジネスチャンス

ITパネル用OLED (G8.7) スパッタリング装置

大型化・低パーティクル化・低温成膜を実現する
枚葉型スパッタリング装置

強み

- ① **枚葉型での大型化 (G8.7) ・低パーティクル化**
スマホ用 (G6) と同等の回路配線幅での低パーティクル実現
大型化による生産性と低パーティクルを両立
- ② **タッチセンサーの高速成膜**
温度に敏感なOLEDプロセスでの低温成膜
⇒高速成膜による高い生産性実現

クライオポンプ[®]「コンポーネント」品目に分類

OLED蒸着装置向けクライオポンプのデファクトスタンダード

強み

- ① **振動が少ない**：蒸着マスクのアライメント（位置決め）への影響を最小限化
- ② 高性能な排気性能
- ③ 省エネ

大口径クライオポンプ (22型)

2023年度 日本真空工業会 (JVIA)
「真空コンポーネント・部品・材料部門賞」受賞OLED蒸着装置大型化に伴い
排気性能向上と省エネ実現 (従来比30%減)

Copyright © 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

18

タブレットやPC用のOLEDビジネスも量産投資が本格化します。
従来のスマホ向けG6サイズからタブレット・PCなどのITパネル用G8.7サイズにガラス基板が大型化します。

スマホと同等の回路配線幅でパーティクルと呼ぶ微細なゴミの発生が少ない半導体仕様の枚葉型のG8.7スパッタリング装置を開発済みで、上期から比較的大きな受注を見込んでいます。

また、OLED用蒸着装置の排気に使うクライオポンプは振動が少ない点を高く評価いただきデファクトスタンダードとなっており、IT-OLEDでもビジネスチャンスが広がります。

- EV化に伴うリークテスト需要等の高まり、表面分析ニーズの拡大等でビジネス機会が増大

リークテスト装置 「コンポーネント」品目に分類

製品・部品の気密性検査の用途拡大

強み

- ① 従来の自動車部品・家電製品に加えて、EV用バッテリー等 **幅広い用途にカスタマイズ**
- ② 業界トップクラスの性能
- ③ 中国現地生産・販売による充実したアフターサポート



表面分析装置 「その他」品目に分類

ラボ型の表面分析装置で世界の過半のシェア

強み

- ① **幅広い表面分析手法技術**
- ② 自動化・操作の簡便化による高い生産性
- ③ 高精度データ取得・活用

X線光電子分光分析装置



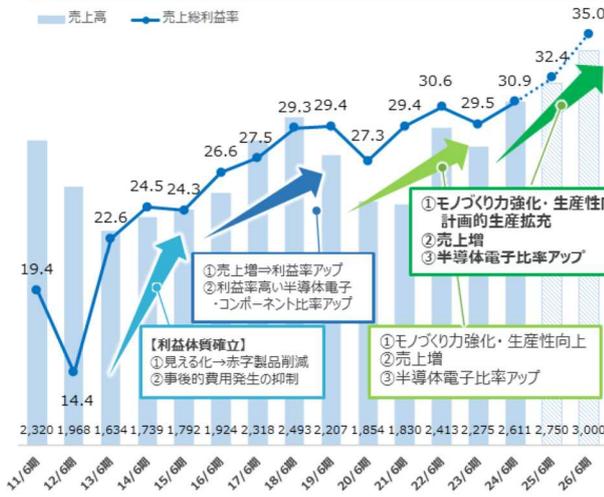
同業他社の表面分析手法		アルバック・ファイ	A社	B社	C社	D社	E社	
分析手法	XPS (X線光電子分光法)	●	●	●	●			
	AES (オージェ電子分光法)	●			●			
	SIMS (二次イオン質量分析法)	TOF-SIMS (最表面分析)	●				●	
		D-SIMS (深さ方向分析)	●					●

Copyright © 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

EV化等に伴うリークテスト需要の高まりに対応したリークテスト装置や、表面分析ニーズの拡大により、世界で過半のシェアを有している表面分析装置などもビジネス機会が増大しています。

- 半導体・パワーデバイス・バッテリー等で計画的生産体制を拡充
- 計画的生産拡充、製品企画力強化、生産性向上、戦略購買力強化を進め、利益率改善
- 売上高増加、半導体電子比率アップによるミックス改善等により、26/6期に売上総利益率35%を目指す

売上総利益率推移 (単位: %)



製品企画力強化

開発・営業・技術・設計・購買・製造・サービスの連携強化
QCDを意識した製品企画徹底

戦略購買力強化

計画的生産に対応した戦略購買体制構築
キーサプライヤーとの連携強化

モノづくり力強化

生産性向上

最適拠点生産
柔軟な経営資源配分体制構築

計画的生産拡充

モジュール化・標準化
リードタイム短縮

情報システム基盤強化

Copyright © 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

20

中期経営計画の重点戦略であるモノづくり力の強化に引き続き取り組んでまいります。

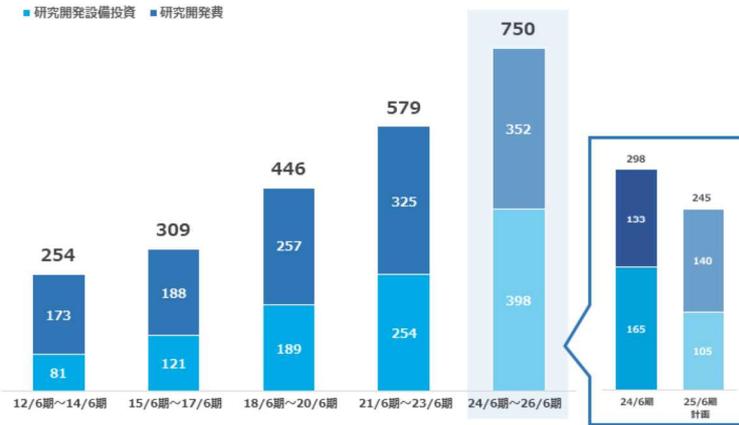
半導体・パワーデバイス・バッテリー等において、計画的生産体制の拡充を図るとともに、製品企画力を強化し、生産性向上、戦略購買力強化に取組み、利益率の改善に取り組んでいます。

売上高増加、半導体電子比率アップによるミックス改善等も相俟って、26年6月期の売上総利益率35%を目指します。

12 研究開発投資：成長ドライバーの研究開発強化

- 成長ドライバー(半導体、パワーデバイス、バッテリー等)の研究開発強化
- 研究開発投資計画(研究開発設備投資+研究開発費、24/6~26/6期)750億円に変更なし
- 韓国テクノロジーセンター竣工：デバイス検証・量産技術の共同開発・検証を加速し、半導体ビジネスの成長を牽引
⇒ 中長期的な成長に向けた研究開発投資継続

研究開発投資推移(3年合計) [単位：億円]

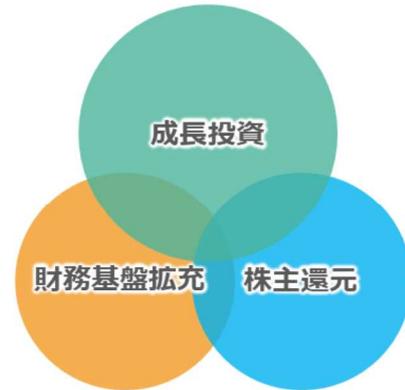


- > 半導体：4割強
ロジック・メモリ(MHM・配線工程向けスパッタ)
- > 電子：2割強
パワーデバイス(イオン注入・スパッタ・エッチング等)
- > ディ스플레이・エネルギー：1割半ば
バッテリー(蒸着)
- > その他：2割強

中長期的な成長に向けて半導体、パワーデバイス、バッテリーなどの成長ドライバーを中心に研究開発投資を継続しています。
研究開発投資の計画は、3年間で750億円に変更はありません。昨年度5月には韓国テクノロジーセンターが竣工し、デバイス検証・量産技術の共同開発・検証を加速させることで、半導体ビジネスの成長を牽引していきます。

- 半導体、電子を中心に成長分野への開発投資を強化
- 株主還元を最重要政策の一つと位置づけ、更なる成長により長期的な配当増額を目指す
- 24年6月期より業績連動配当性向を35%へ引き上げ、株主還元を拡充
⇒24/6期配当金144円（前回予想比+30円）は過去最高
- 業界変動や技術革新の激しい業界にあり、これらのリスクや資金需要に対応するため財務基盤も拡充

1株当たり配当金推移 【単位：円】



Copyright© 2024, ULVAC, Inc. All rights reserved

22

株主還元については、

半導体・電子を中心に成長分野への開発投資を強化し、更なる成長により長期的な配当増額を目指しています。

株主還元を拡充すべく24年6月期より業績連動配当性向を30%から35%に引き上げました。24年6月期の配当金は前回予想比30円増額となり144円と過去最高を予定しています。

前期は前年同期・計画を大幅に上回る実績となりました。

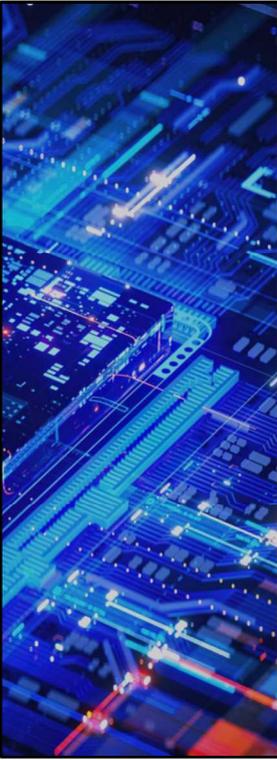
受注面では、メモリ・ロジックの投資回復、OLED投資の本格化により、今期も成長が期待できます。

来期以降は、バッテリーの本格投資が加わることで、成長ドライバーがさらに成長していきます。

加えて、リークテスト装置や表面分析装置など、幅広い装置群で着実に成長していけると確信しています。

引き続き、利益率の改善にも取り組んでまいります。

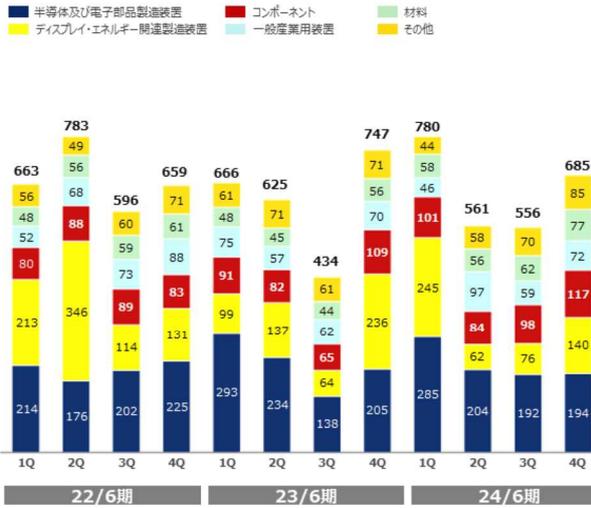
また研究開発投資を継続し、中長期的な成長を目指して取り組んでまいります。



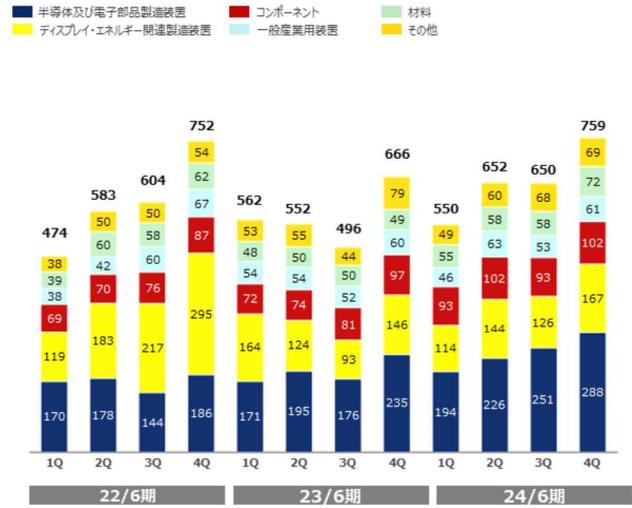
補足資料

【単位：億円】	23/6期				24/6期				前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減額	増減率
	受注高	666	625	434	747	780	561	556	685	-62
売上高	562	552	496	666	550	652	650	759	+93	+14%
売上総利益	165	168	147	191	153	201	220	233	+42	+22%
率	29.3%	30.5%	29.7%	28.7%	27.7%	30.8%	33.8%	30.7%	+2.0pt	-
販管費	113	115	125	119	124	126	119	139	+20	+17%
営業利益	51	53	23	72	28	75	101	94	+22	+30%
率	9.1%	9.7%	4.6%	10.8%	5.1%	11.5%	15.5%	12.3%	+1.5pt	-
経常利益	52	65	39	72	29	81	95	93	+21	+29%
率	9.3%	11.8%	7.8%	10.8%	5.3%	12.4%	14.6%	12.3%	+1.4pt	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	53	24	24	11	57	64	69	+45	+188%
率	7.2%	9.6%	4.9%	3.6%	2.1%	8.8%	9.9%	9.1%	+5.5pt	-

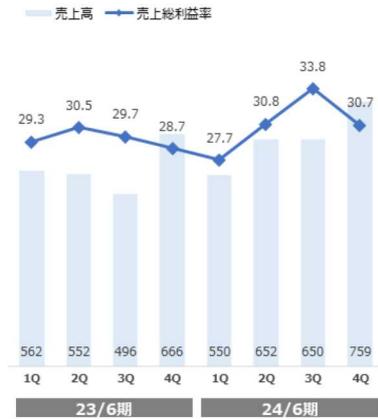
受注高 【単位：億円】



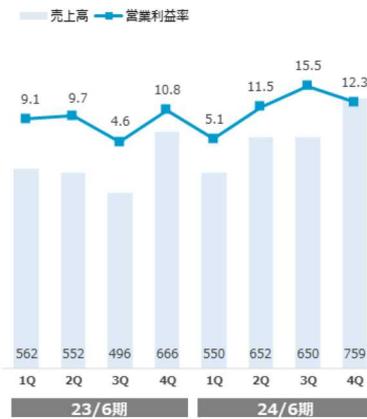
売上高 【単位：億円】



売上総利益率 【単位：億円、%】



営業利益率 【単位：億円、%】

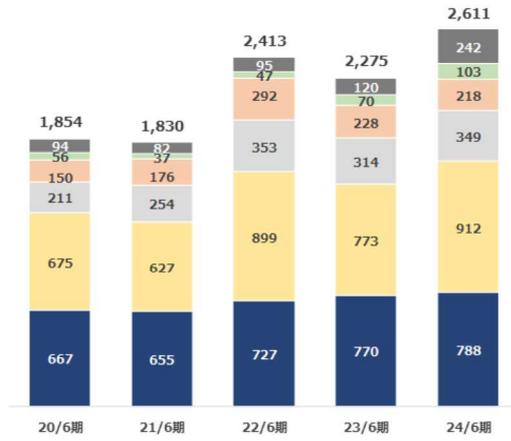


販管費(率)推移 【単位：億円、%】



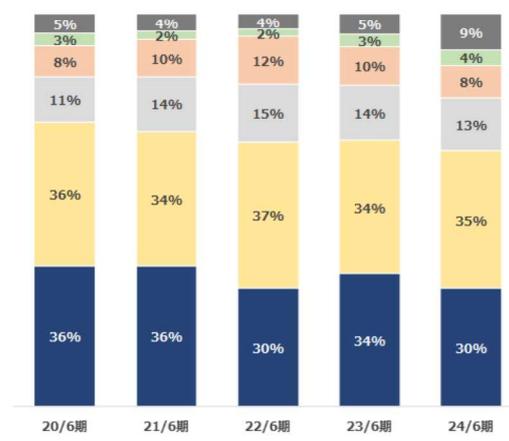
売上高 【単位：億円】

■ 日本 ■ 中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ その他アジア ■ 欧米他



売上高比率

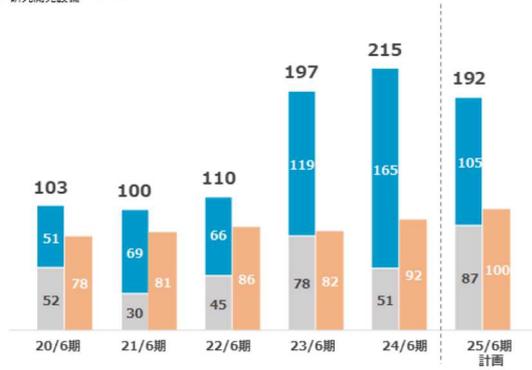
■ 日本 ■ 中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ その他アジア ■ 欧米他



設備投資の推移・計画

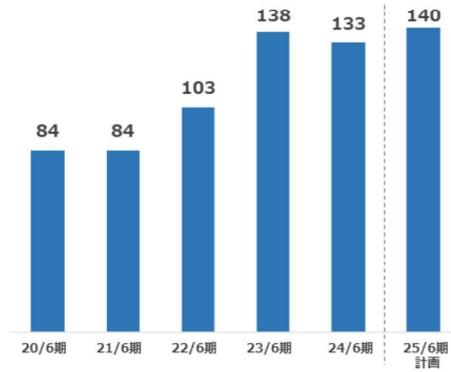
【単位：億円】

- 建物・生産設備等
- 研究開発設備
- 減価償却費



研究開発費の推移・計画

【単位：億円】



社会的課題解決

スマート社会・
デジタル社会実現



グリーンエネルギー化
低消費電力化

メモリ

ロジック IC

センサー・電子部品

パワーデバイス

バッテリー

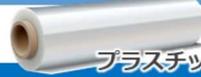
微細化 / 高性能化 / 低消費電力化



ウエハー



ガラス



プラスチック

真空薄膜形成技術

スパッタリング

蒸着

CVD

エッチング・アッシング

イオン注入

コンポーネント

マテリアル

カスタマーサポート

さまざまな業界・用途で貢献する
アルバックの真空技術



ULVAC